

営農情報 第1号

平成27年4月3日
アルプス農協管内農業技術者協議会

異常気象に打ち勝つ稲づくりは、土づくりが基本

異常気象に打ち勝つ高品質で安定的な稲づくりには、土台となる土づくりが最も重要です。水稲作付け前に必要な養分を補給し、気象変動に備えましょう。

1. 土づくり資材施用で、ケイ酸を補給

ケイ酸は稲体の基となる重要な成分ですが、自然から供給されにくいいため、稲作では特に補給が必要です。

また、アルカリ分は土壌の酸性を矯正するため、養分吸収の向上やカドミウムの吸収抑制に有効です。

昨年秋に施用されてないほ場には、必ず施用しましょう

【土づくり資材の特徴と施用量の目安】

資材名	特徴	ケイ酸分 (%)	アルカリ分 (%)	10a 当たり施用量
粒状ケイカル	ケイ酸を供給して茎や葉が強くなる 倒伏やいもち病に対して抵抗力が増す	30.0	44.0	200kg
元 気 (新)	ケイ酸、苦土の他、有機質15%入り	24.0	32.0	100kg
シリカロマン	ケイ酸の他、鉄、リン酸、苦土が一度に供給可能	25.0	45.0	100kg
シンキョーライトP	天然ミネラルを含み、根張り促進、保肥力の改善	(66.1)	—	100kg



【土づくり資材の施用効果】

2. 有機物で地力をつける

堆肥等の有機物施用は、土壌の保水性や通気性を良くし、肥効を持続させる効果があります。

下表のいずれかの“有機物の施用”や“地力増進作物を栽培”しましょう。

【有機物施用の目安 (10a 当たり施用量・春施用の場合)】

牛ふん堆肥	豚ふん堆肥	発酵鶏ふん	糞から堆肥
1～2 t	0.5～1 t	75～100kg	1～2 t

【地力増進作物の栽培 (夏作物)】

作物名	播種時期	播種量	基肥	すき込み時期
クロタラリア	5月～7月	5～6kg/10a	不要	播種後50～70日後
ソルゴー	5月～7月	5～6kg/10a	4kg/10a	播種後60～70日後

JAアルプスでは、ケイ酸質資材や有機物等を散布した場合、助成を行っています
(※ただし、JAアルプスから購入された資材のみ対象となります) くわしくは営農センターへ

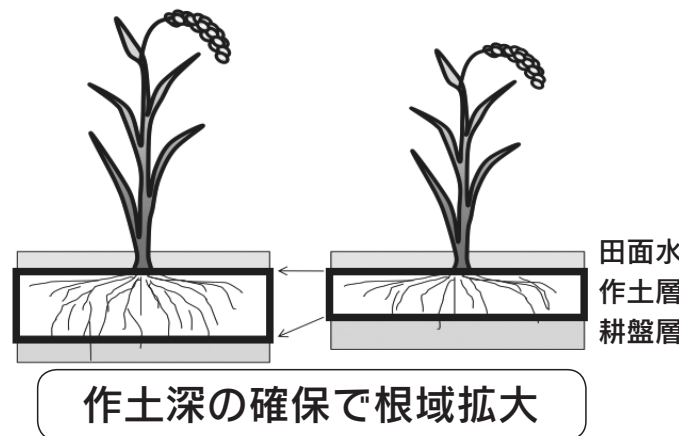
3. 深耕して、根域を拡大

① 作土層拡大の効果

作土層が厚いと根域が拡大し、気温や水分変化の影響を受けにくくなります。

② 深耕の方法

トラクターの速度を落として作土層15cm以上を確保します。作土層が浅いほ場はプラウやスタブルカルチ等の利用による、「現状のプラス3cm」をめざします。



★ケーブルテレビで営農情報を放送

同じ営農情報を JA ホームページでも見られます

『Net3 パラダイス』(デジタル091ch)の中で『農業ファイル』を3月29日から放送しています
(放送時間 6:45 頃、10:45 頃、17:15 頃、20:45 頃)

★春の農作業安全運動実施(4/1～5/31) 転落・転倒事故をなくそう

★生産履歴の記帳と適正農業管理(GAP)に取り組み、「安全・安心」な米づくりを進めましょう

～「苗づくり」は稲づくりの始めの一步～

1. 田植えに合わせた育苗計画

- ・コシヒカリの高温登熟を回避するため、5月15日中心とした田植えを行いましょう（中山間地を除く）。
- ・また、育苗日数は播種後20日間を目安に播種、浸種日等を設定しましょう。

【コシヒカリの育苗計画の目安】

田植予定日	浸種	催芽	播種	育苗日数
5/15	4/12	4/24	4/25	20日間

※コシヒカリの田植時期が5月中旬植えの場合や、茎数が確保しにくい地域では、**栽植密度70株/坪**を基本としましょう。
田植時期や栽植密度（70株/坪）に合わせた必要箱数を事前に把握し、育苗計画を立てましょう。

2. 育苗器材や育苗ハウスの準備

【育苗箱・育苗器材】

- ・育苗箱、育苗器材は使用前にイチバンで消毒。
※前年に細菌性病害の発生が見られた場合は、**ケミクロンG**を用いる。
（ケミクロンGは、金属類での使用及び油類との同時貯蔵はしない）
（使用済の薬液は川や用水路に流さない）

【育苗ハウス】

- ・ハウス内の雑草や稲わら等は事前に取り除きましょう。
- ・ハウスの床は整地して均平にしましょう。
※床が凸凹だと部分的に水が溜まり、そこが過湿となり病害が発生しやすくなります。
- ・ハウスのまわりには、必ず排水溝を掘り、置床がよく乾くようにしましょう。



育苗ハウスのまわりに排水溝を掘り、置床を乾燥させる。

3. コシヒカリ5月15日植え作業スケジュール

月日	作業	温度管理	作業管理のポイント									
4/10	比重選 水洗・袋詰め		<p>①比重選は必ず実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比重選で浮く種籾は、病気や出芽不揃いのもとになります。 ・硫安は良く溶かして使いましょう。 ・比重選後の種籾は十分水洗いし、袋にぎっしり詰めこまないようにしましょう。 <p>※消毒済み種子を使用する場合は比重選を行わず、浸種作業からスタートしましょう。</p> <p>【比重液の作り方(水10ℓの場合)】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>比重</th> <th>硫安</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>うるち</td> <td>1.13</td> <td>2.6 kg</td> </tr> <tr> <td>もち・酒米</td> <td>1.08</td> <td>1.5 kg</td> </tr> </tbody> </table>		比重	硫安	うるち	1.13	2.6 kg	もち・酒米	1.08	1.5 kg
	比重	硫安										
うるち	1.13	2.6 kg										
もち・酒米	1.08	1.5 kg										
4/10	種子消毒	水温10℃以上を確保	<p>②種子消毒の徹底</p> <p>テグリードCフロアブル200倍液で24時間浸漬 ※同じ消毒液の使用は2回まで (使用済の薬液は川や用水路に流さない)</p> <p>【種籾に対する薬液量の目安】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>消毒種籾量</th> <th>10kg</th> <th>30kg</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>200倍液</td> <td>水 20ℓ 薬剤 100cc</td> <td>60ℓ 300cc</td> </tr> </tbody> </table>	消毒種籾量	10kg	30kg	200倍液	水 20ℓ 薬剤 100cc	60ℓ 300cc			
消毒種籾量	10kg	30kg										
200倍液	水 20ℓ 薬剤 100cc	60ℓ 300cc										
4/12	浸種	水温10℃以上15℃以下	<p>③浸種は積算温度を十分に！初日の水温確保を！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浸種中の水温は10～15℃を保ち、しっかり浸種しましょう。 ・浸種初日は消毒効果及び発芽率を高める為に、水温12.5℃を確保しましょう（浸種始めから6～8時間を10～15℃に保つことが重要）。 ・浸種桶は日かげ等直接日光が当たらない場所に置きましょう。 ・浸種開始後3日間は水の交換をせず、その後1日おきに、交換しましょう。 ・気温が低い場合は、浸種期間を長くしましょう。 ・水温が高くなり芽が伸びる恐れがある場合は、冷たい水につけましょう。 <p>【播種計画の目安】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>浸種日</th> <th>播種日</th> <th>田植日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4/5</td> <td>4/18</td> <td>5/10</td> </tr> <tr> <td>4/12</td> <td>4/25</td> <td>5/15</td> </tr> </tbody> </table>	浸種日	播種日	田植日	4/5	4/18	5/10	4/12	4/25	5/15
浸種日	播種日	田植日										
4/5	4/18	5/10										
4/12	4/25	5/15										
4/24	催芽	育苗器で30℃24時間程	<p>④芽の長さをこまめにチェック！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・催芽の程度は、ハトムネ～芽長2mm程度。 ・育苗器を使う場合、袋には種籾をたくさん入れすぎず、1日2～3回上下段を入れ替えたり、袋を裏返すなどムラなく芽出ししましょう。 ・均一に播種するため、種籾の水切りは十分に行いましょう。 (籾が手につかない程度まで陰干しを行う) ・循環式催芽器(ハトムネ催芽器)は使用しない(細菌性病害の発生防止)。 ※ただし、温湯消毒の体系処理(催芽時に食酢浸種処理)を行う場合を除く。 <p>芽長2mm ハトムネ</p> <p>【最適な芽の長さ】</p>									